



決算説明資料

2021年3月期



証券コード

5936

2021年6月7日

東洋シャッター株式会社

2021年3月期 決算概況 P 3

経営環境	P4~6
決算概要	P7
収益性分析	P8~11
製品別売上明細・実績推移	P12~15
受注実績・受注残高推移	P16
メンテナンス事業の状況	P17
キャッシュ・フロー計算書	P18

中期経営計画について P 19

『BRUSH UP 3』の振り返り	P20
過去中期経営計画の振り返り	P21
中長期的な事業環境予測と対応方針	P22
『BRUSH UP 3 + 1』について	P23~26
2021年3月期業績計画	P27
設備投資額・減価償却費の見通し	P28
配当の状況	P29

その他トピックス P 30

注目度の高い最近の製品	P31~34
-------------	--------

参考資料 P 35

東洋シャッターの概要	P36,37
------------	--------

2021年3月期 決算概況

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

国内経営環境

国内
経済

国内経済は新型コロナウイルスの影響により、
社会経済活動が大きく抑制され、極めて厳しい状況



建設
市場

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて
民間設備投資需要が弱含み

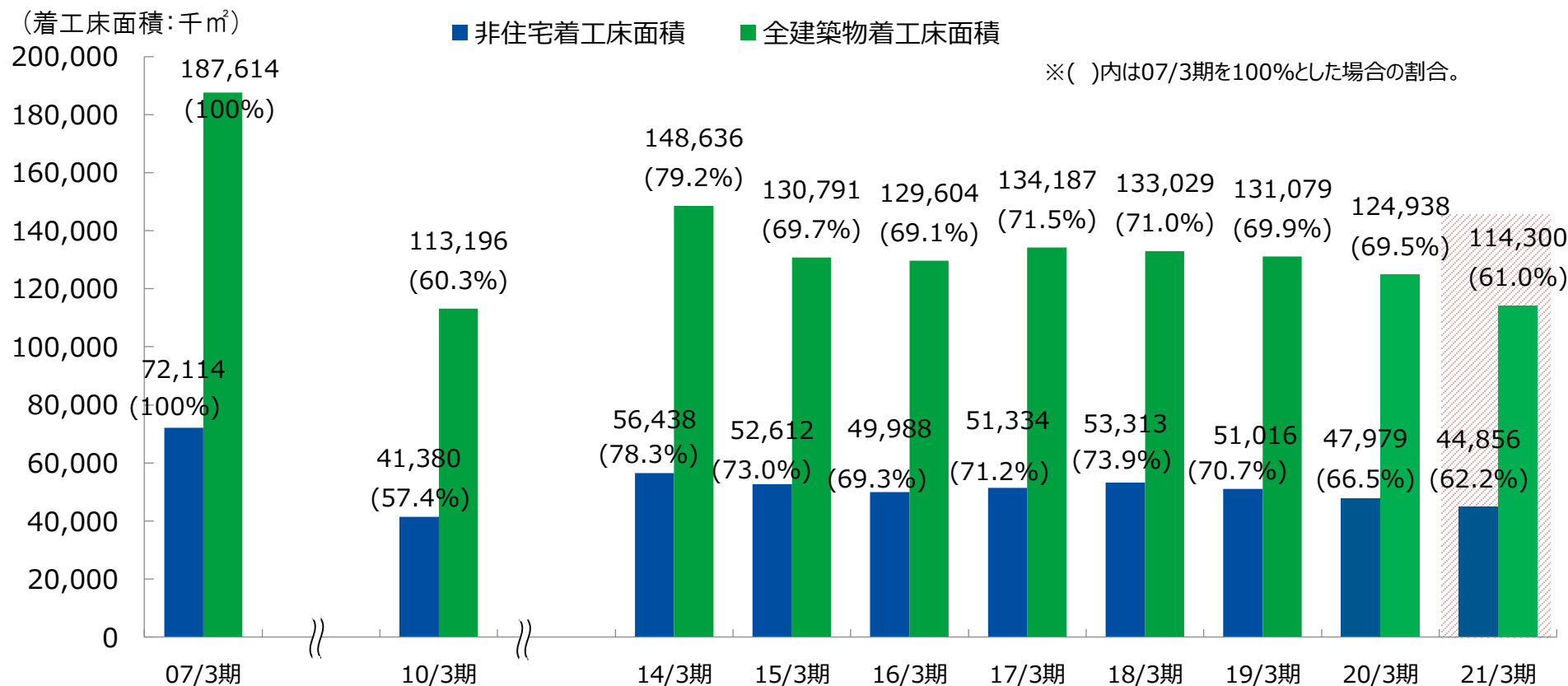


シャッター
市場

景気の先行き不透明感から、
民間設備投資需要が弱含み厳しい受注環境が継続

非住宅着工床面積の推移

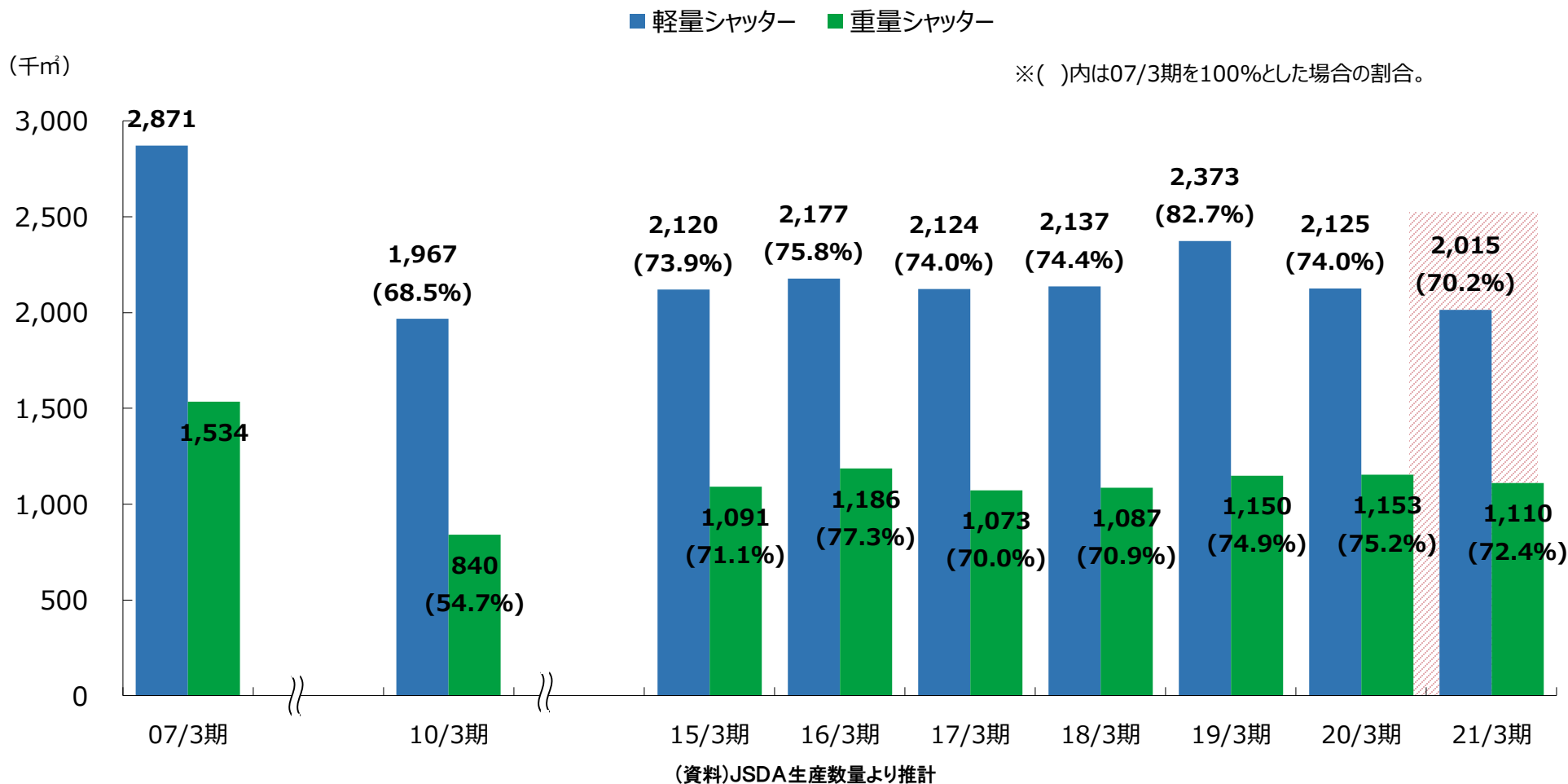
- 非住宅着工床面積は前年同期比で6.5%減



(資料) 国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

JSDA（日本シャッター・ドア協会）集計 生産数量推移

- 軽量シャッターは前年同期比で5.2%減
- 重量シャッターは前年同期比で3.7%減

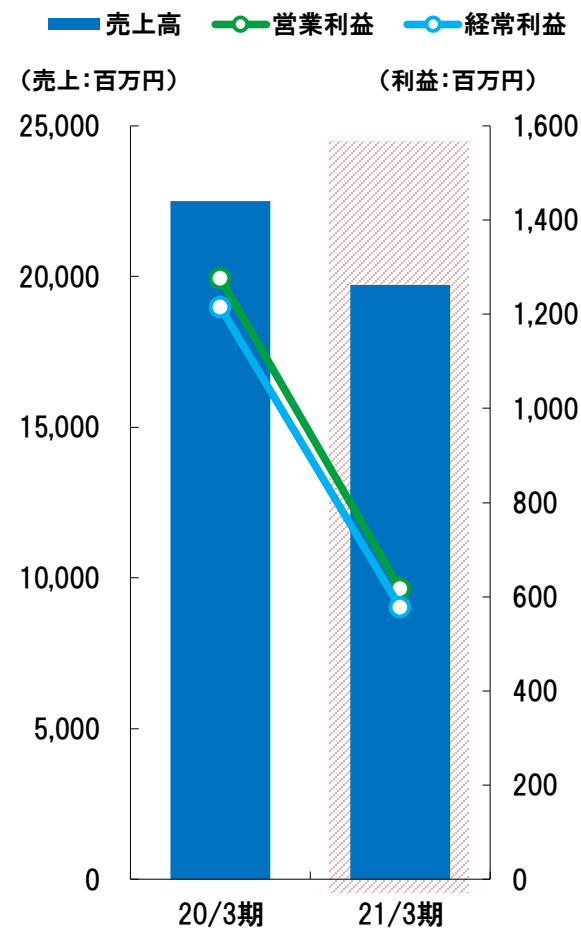


- ① 売上高 : 計画比3.8%増の197億1,400万円
- ② 営業利益 : 計画比11.9%減の6億1,700万円
- ③ 経常利益 : 計画比8.4%減の5億7,700万円
- ④ 親会社株主に帰属する当期純利益 : 計画比6.7%減の4億2,000万円

(百万円)	20/3期	21/3期	
		計画	実績
売上高	22,505	19,000	19,714
営業利益	1,276	700	617
経常利益	1,215	630	577
親会社株主に帰属する 当期純利益	788	450	420

- 自然災害による復旧需要の終息、大型案件が前年度の大幅増の反動により減少
- 新型コロナウイルスの影響で小口案件が減少
- 営業停止処分については、第4四半期の収益に影響

(百万円)	20/3期	21/3期	前期比 増減率
売上高	22,505	19,714	△12.4%
売上原価	16,818	14,929	△11.2%
売上総利益	5,686	4,784	△15.9%
売上総利益率	25.3%	24.2%	
販売管理費	4,410	4,166	△5.5%
営業利益	1,276	617	△51.6%
営業利益率	5.7%	3.1%	
経常利益	1,215	577	△52.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	788	420	△46.6%
減価償却費	433	422	△2.5%



収益性改善の取り組み

1 安定的な生産量の確保

2 「メンテサービス」の強化・拡大

3 採算管理の強化

4 業務効率化による少数精鋭体制確立

四半期ごとの売上高・営業利益の推移

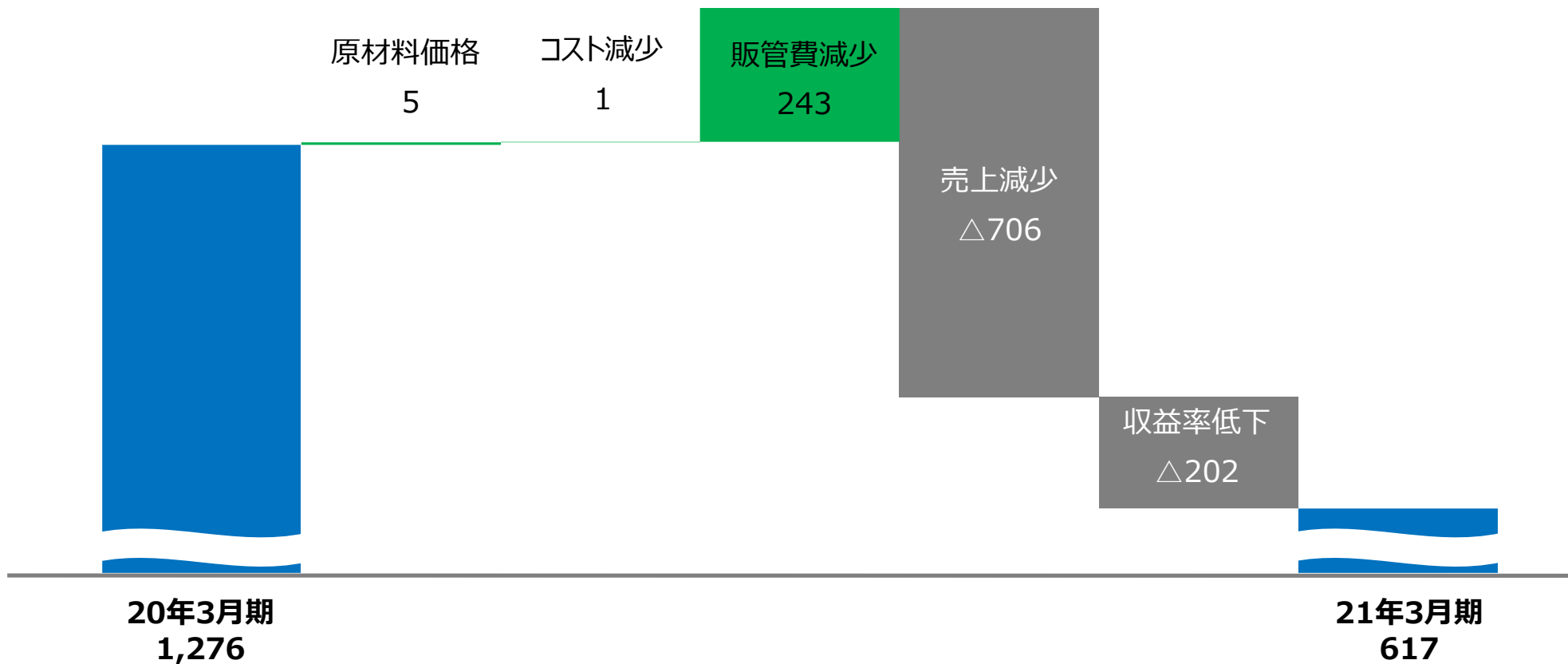
- 不測の事態が続く環境下であったが、2018年3月期並みの業績を確保

(百万円)		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	累計
売上高	2016/3	4,315	4,528	4,688	5,009	18,540
	2017/3	3,762	4,314	4,427	5,317	17,820
	2018/3	3,996	4,598	4,849	5,600	19,043
	2019/3	4,097	4,823	6,105	6,226	21,251
	2020/3	4,961	5,788	5,464	6,292	22,505
	2021/3	4,470	4,807	4,756	5,681	19,714
営業利益	2016/3	161	310	337	358	1,166
	2017/3	14	234	219	289	756
	2018/3	16	148	205	209	578
	2019/3	57	153	640	567	1,417
	2020/3	185	369	250	472	1,276
	2021/3	3	164	207	243	617

営業利益増減要因 前期比

前年度の自然災害対応の反動や新型コロナウイルスの影響を鑑み計画を策定。売上高は予想の範囲内に落ち着くも、収益率は低下し営業減益。

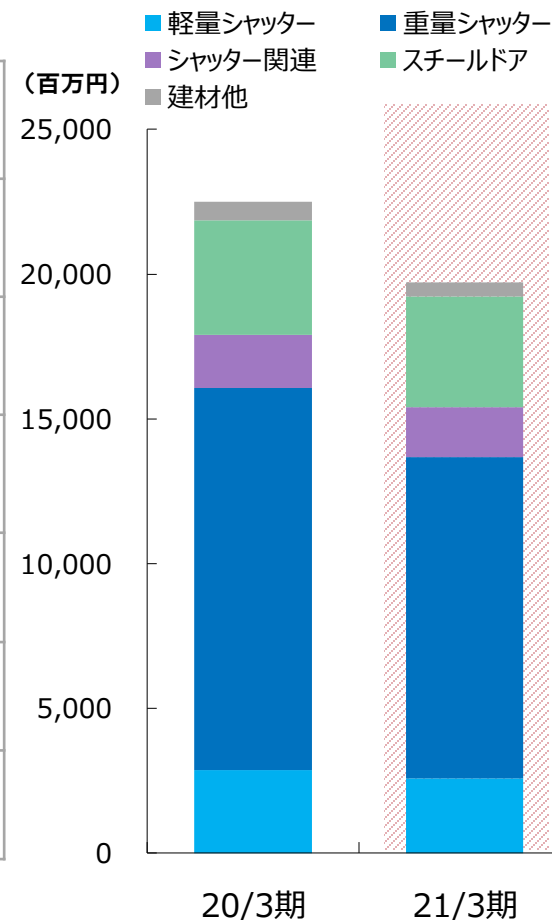
(単位：百万円)



全製品別売上実績

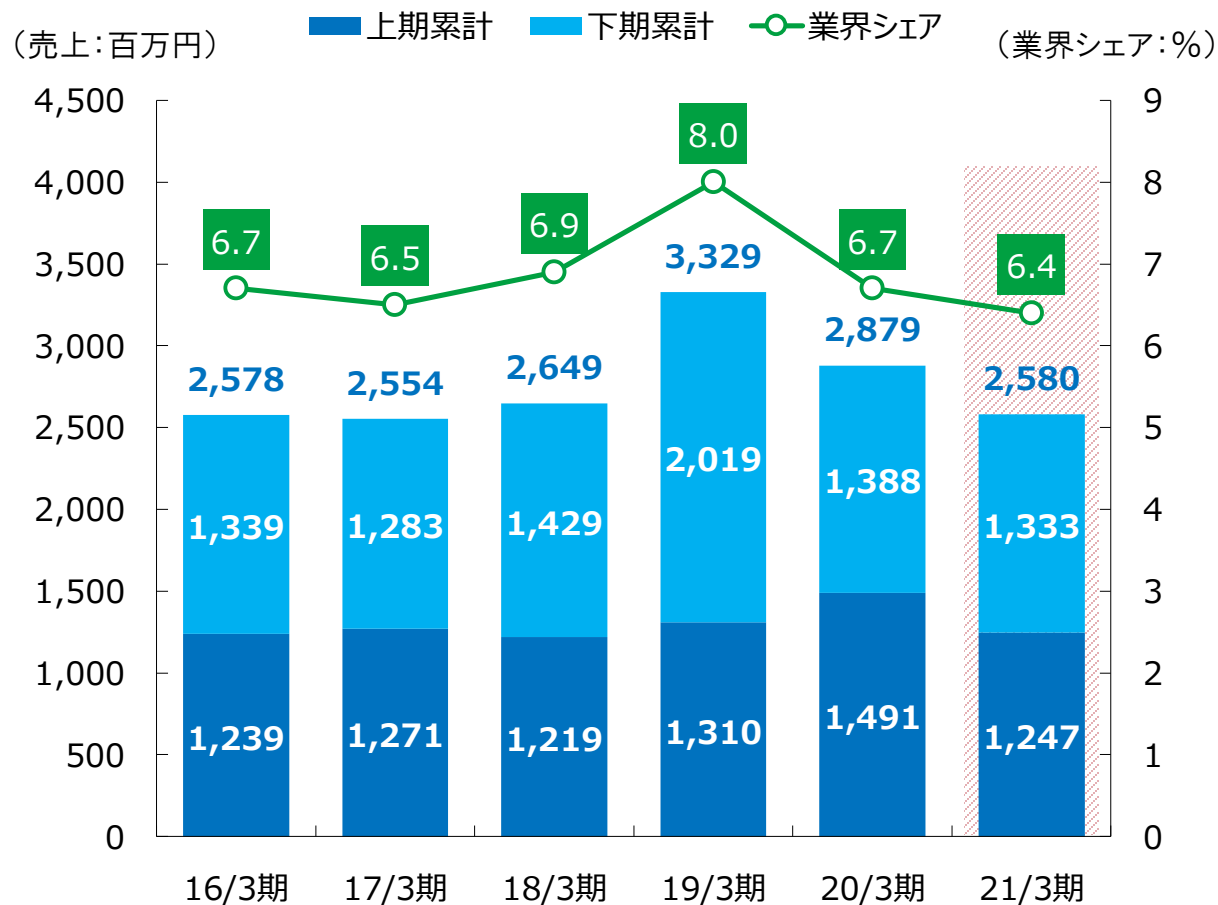
- 軽量シャッターは10.4%減少、重量シャッターは15.8%減少
- スチールドアは総じて堅調に推移するも、前年度の反動もあり3.8%の減少

(百万円)	20/3期	構成比	21/3期	構成比	前期比 増減率
軽量シャッター	2,879	12.8%	2,580	13.1%	△10.4%
重量シャッター	13,189	58.6%	11,104	56.3%	△15.8%
シャッター関連	1,829	8.1%	1,727	8.8%	△5.6%
スチールドア	3,957	17.6%	3,807	19.3%	△3.8%
建 材 他	648	2.9%	493	2.5%	△23.9%
合 計	22,505	100%	19,714	100%	△12.4%



軽量シャッター

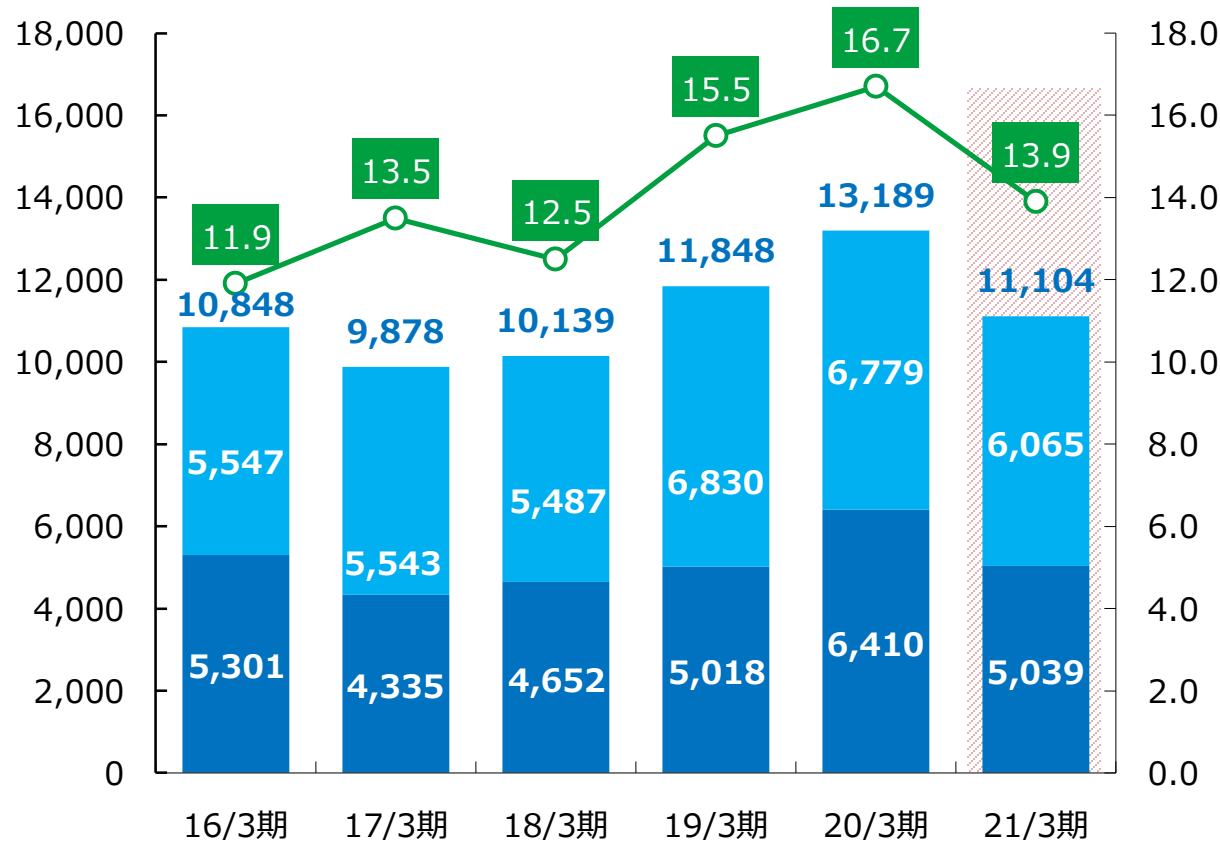
- 業界シェアは0.3%減少
- 2年間連続して発生していた自然災害の復旧需要がなくなり、例年並みに落ち着く



重量シャッター

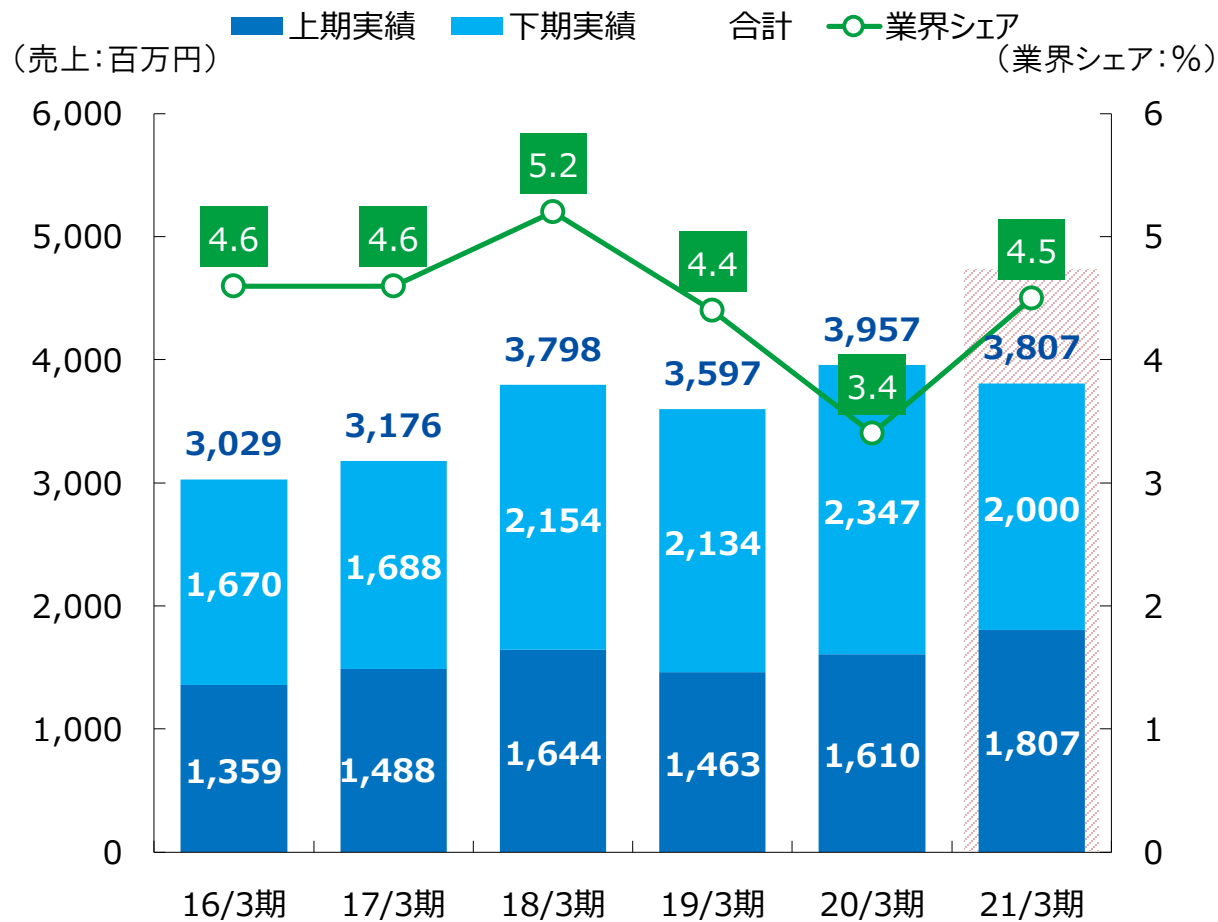
- 業界シェアは2.8%減少
- 前年度に集中的な受注のあった大型物件が一段落したことや、小口案件が新型コロナウイルスによる影響で減少

(売上:百万円) ■ 上期累計 ■ 下期累計 ○ 業界シェア (業界シェア:%)



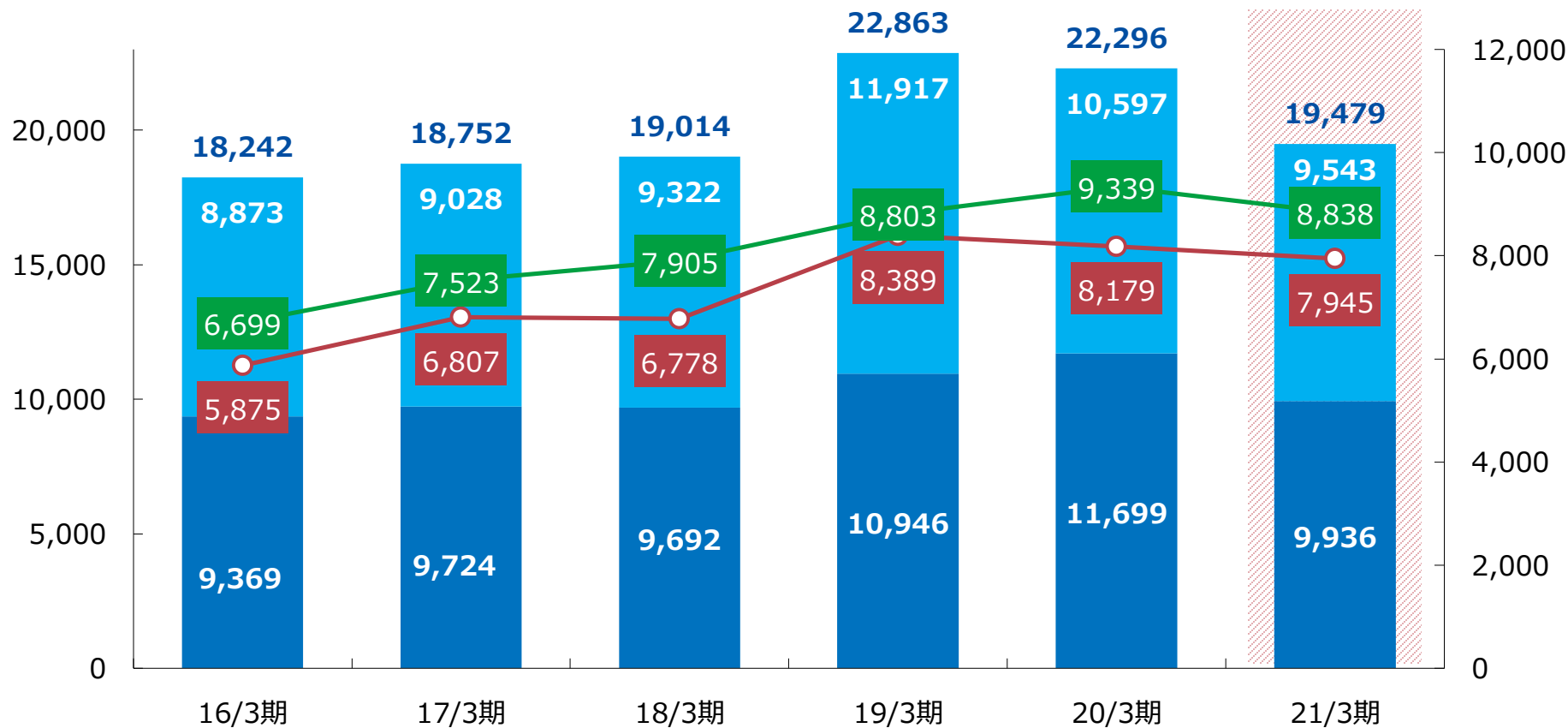
スチールドア

- 首都圏を中心とした再開発案件の進捗によって堅調に推移



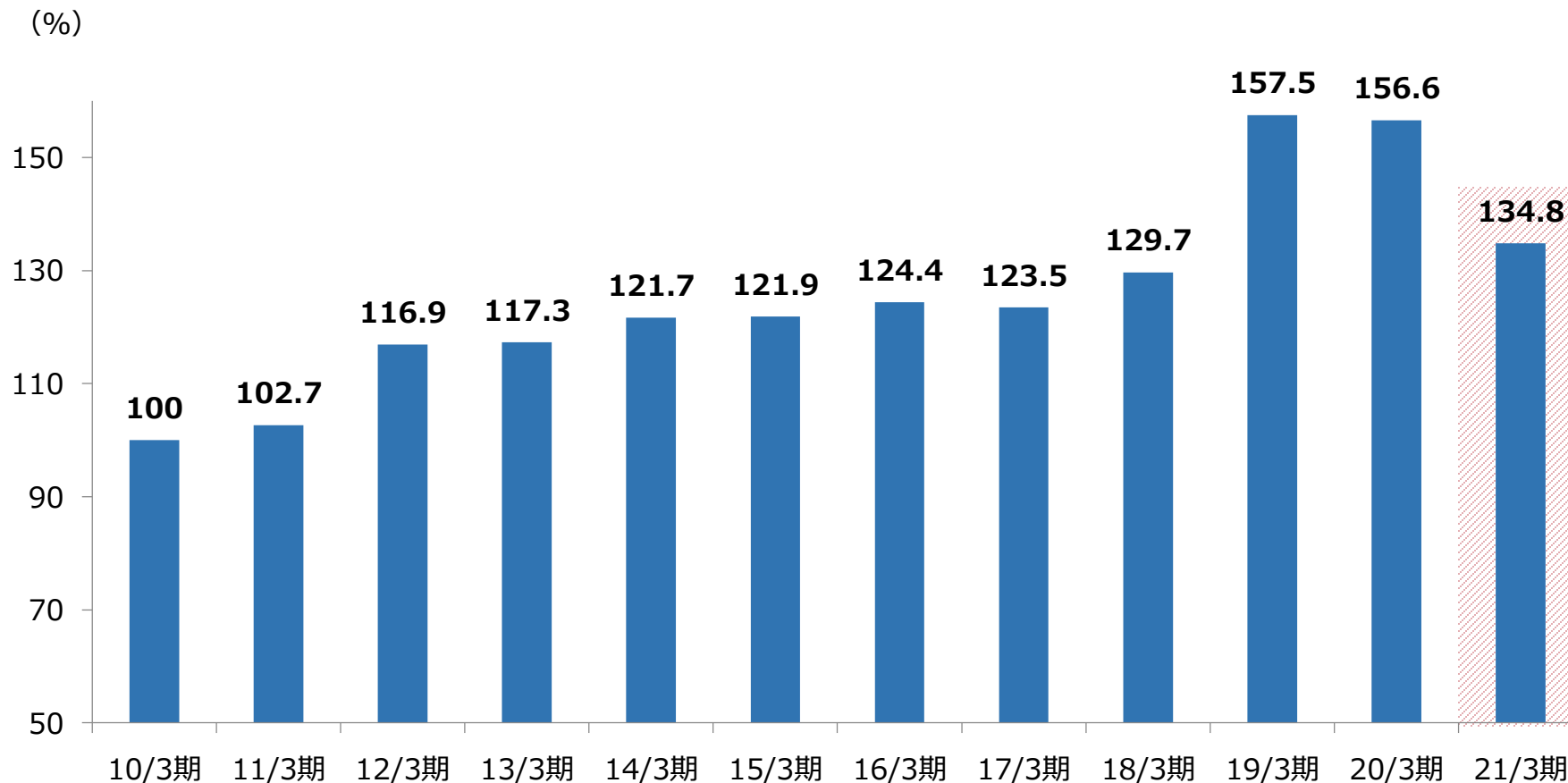
- 期末受注残高は引き続き、一定水準を維持
- 新型コロナウイルスの影響で例年と比べ依然先行き不透明

(受注：百万円) ■ 上期受注 ■ 下期受注 ※通期 ● 上期末残高 ● 期末残高 (残高：百万円)



※受注実績・受注残高は、工事進行基準適用後の金額

- 自然災害による復旧需要が一巡し、減少に転じる
- 新型コロナウイルスの影響で、任意の定期点検依頼等が減少傾向



* 10/3期を100とした場合の売上高の推移。

キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動 C F : 売上債権の減少によるもの
- 投資活動 C F : 固定資産の取得によるもの
- 財務活動 C F : 長期借入れによる収入によるもの

(百万円)	20/3期	21/3期
期首現金・現金同等物残高	2,426	2,278
営業活動によるキャッシュ・フロー	519	530
投資活動によるキャッシュ・フロー	△96	△123
フリーキャッシュ・フロー	423	407
財務活動によるキャッシュ・フロー	△570	△448
期末現金・現金同等物残高	2,278	2,236

中期経営計画「BRUSH UP 3+1」について

プラスワン



BRUSH UP 3+1
—磨き上げよう企業品質— **プラスワン**

TOYOShutter

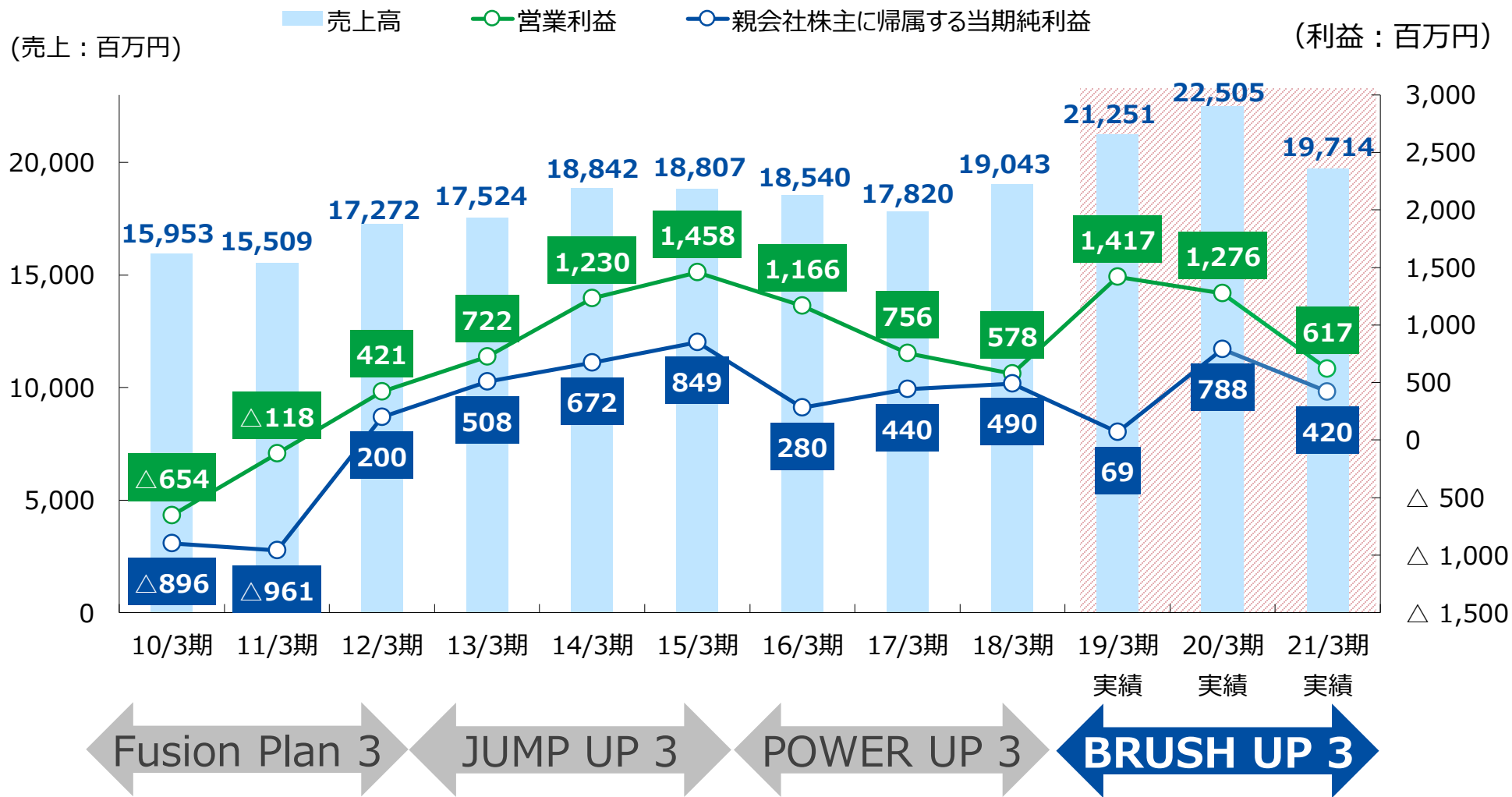
東洋シャッター株式会社

中期経営計画期間 連結業績

- 最終年度は新型コロナウイルスの影響を受けるも、中期経営計画期間合計では、経営目標を大きく上回る業績を達成。

(百万円)	19/3期 実績	構成比	20/3期 実績	構成比	21/3期 実績	構成比	合計	構成比
売上高	21,251	—	22,505	—	19,714	—	63,470	—
	(19,000)		(19,500)		(20,000)		(58,500)	
営業利益	1,417	6.7%	1,276	5.7%	617	3.1%	3,310	5.2%
	(600)	3.2%	(700)	3.6%	(800)	4.0%	(2,100)	3.6%
経常利益	1,382	6.5%	1,215	5.4%	577	2.9%	3,174	5.0%
	(500)	2.6%	(600)	3.1%	(700)	3.1%	(1,800)	3.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	69	0.3%	788	3.5%	420	2.1%	1,277	2.0%
	(300)	1.6%	(400)	2.1%	(450)	2.3%	(1,050)	1.8%

※ () 内は当初計画



非住宅着工床面積は3年連続で減少

新型コロナウイルス感染症の収束や景気動向が極めて不透明

**企業の景況感は
未だ本格的な回復には至らず**

民間設備投資が弱含み

新たな中期経営計画を策定するには立脚すべき前提条件が余りに不確定

現計画を更に継続して推進し事業基盤の確立を進める

**営業活動による適正受注確保・販売拡大を展開
徹底した受注案件の採算管理強化を行う
段階的投資による業務全般の効率化の推進を図る**

私たちは企業品質の向上を目指し、安全・安心・快適・感動を提供するとともに社会の進歩発展に貢献します。



企業品質の向上

社会の進歩発展に貢献

方向性

環境に応じたスタイルを追求し、
行動力・スピード・稼ぐ力を全員で磨く。

主力事業

商品開発・ものづくり改革に挑み、
主力事業の完成度を高め、お客様との絆を深める。

**新分野
へ挑戦**

新たな出会いや新しい分野への挑戦を目指し、
次世代に繋がる収益基盤を構築する。

**個々の
責任**

社員や共に働く人々は日々成長を志し、
新しい自分と出会えるよう自己研鑽に励む。



経営

コーポレートガバナンスを一層強化し、更なる内部統制の充実と意思伝達の迅速化を図る。

売上 増強

主力事業での売上増強策として、ラインナップの充実、既存販売網で拡販出来る商品開拓を行う。

収益力 強化

受注案件の採算管理を一層推し進め、稼ぐ力を磨くとともに、
全社コストと時間管理の見直しにより収益力強化を図る。

ストック 対策

メンテナンス事業は構築してきた基盤での保守点検契約の獲得に向けた動きを行う。



投資

自動化、省力化、効率化、多能化を実現するため、段階的投資を行い、生産体制と設計施工体制の強化に努める

人材育成

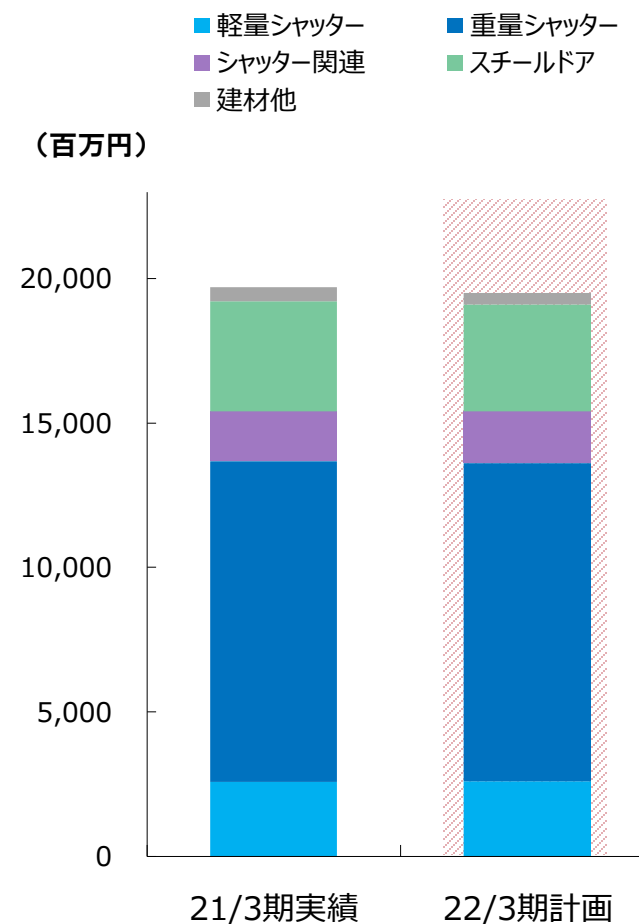
人員の、適材適所の配置と最大パフォーマンスの発揮が出来る、個別の職務開発の実施、社員一人ひとりの成長に向けた自己研鑽に励む風土を醸成する

配当方針

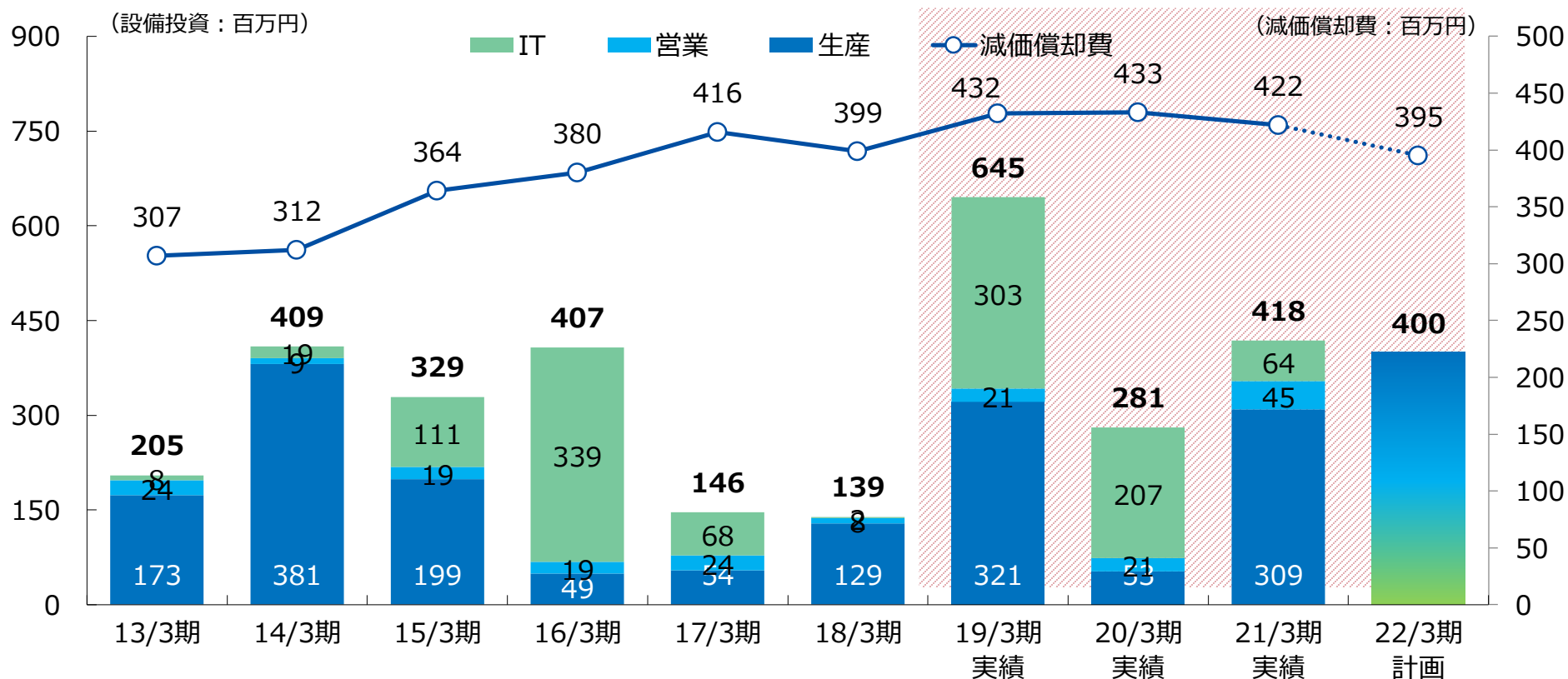
効率化改革に資する設備投資や研究開発費に必要な内部留保の確保、財務状況や業績等を勘案しながら、株主の皆様へ安定的な配当を目指す。

- 新型コロナウイルスの影響で、収益性の高い小口案件やメンテサービスが厳しい状況であることに加え、原材料価格の高騰もあるが、重点施策を徹底し計画達成を目指す

百万円	21/3期 実績	22/3期 計画
売上高	19,714	19,500
軽量シャッター	2,580	2,600
重量シャッター	11,104	11,000
シャッター関連	1,727	1,800
スチールドア	3,807	3,700
建材他	493	400
営業利益	617	700
営業利益率	3.1%	3.2%
経常利益	577	630
親会社株主に帰属する当期純利益	420	430

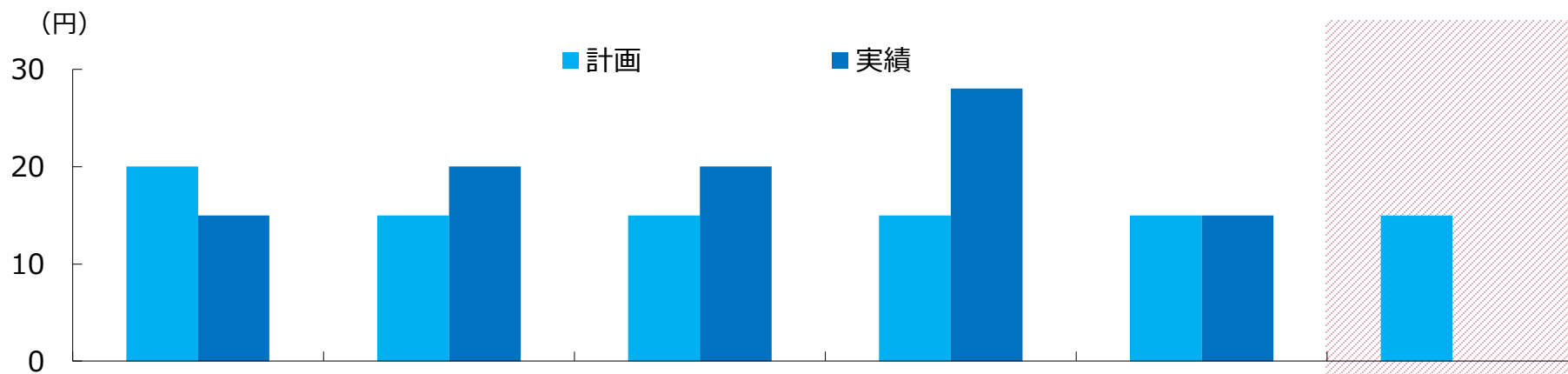


- 21年3月期の設備投資計画については生産設備を中心に計画通り実施
- 22年3月期も生産設備を中心に4億円の設備投資を計画



※投資にはリースの実行額を含んでおります。

- 財務状況や業績等を勘案し、安定的な配当を目指す
- 21年3月期の期末配当金は15円を配当、22年3月期も15円を計画



	17/3期		18/3期		19/3期		20/3期		21/3期		22/3期
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画
通配当金	20円	15円	15円	20円	15円	20円	15円	28円	15円	15円	15円
配当性向	20.5%	21.6%	19.4%	25.9%	31.7%	182.5%	23.8%	22.5%	21.1%	22.6%	21.1%

その他トピックス

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

ハイスピードシャッター<シュネルカイザー>



ハイスピードシャッター
シュネル  **カイザー**

製品概要

【特長】

- 省エネ
 - 1.2m/sの開放速度で開放時間を短縮し、工場や倉庫内の冷気(暖気)の漏れを最小限に抑える
 - 本体パネルは発泡ウレタンを充填しており、閉鎖時の断熱性能が高く省エネ効果が期待できる
- 安全
 - ライトグリル（46mmピッチの多重光電センサー）をガイドレールに標準装備、フロアから1800mm迄の非接触感知により安全性を高めている
- 高耐久性
 - パネルを渦巻き状に巻き取り、パネル同士が接触しないノータッチロール機能及びスロースタート、スローストップのインバーター制御により高耐久性を実現
- 多様性
 - 発泡ウレタンを充填したパネルにより、断熱性能に加え、遮音、耐風圧性能も備え、様々なニーズに対応

住宅用ガレージドア<シュネルスピッツ>

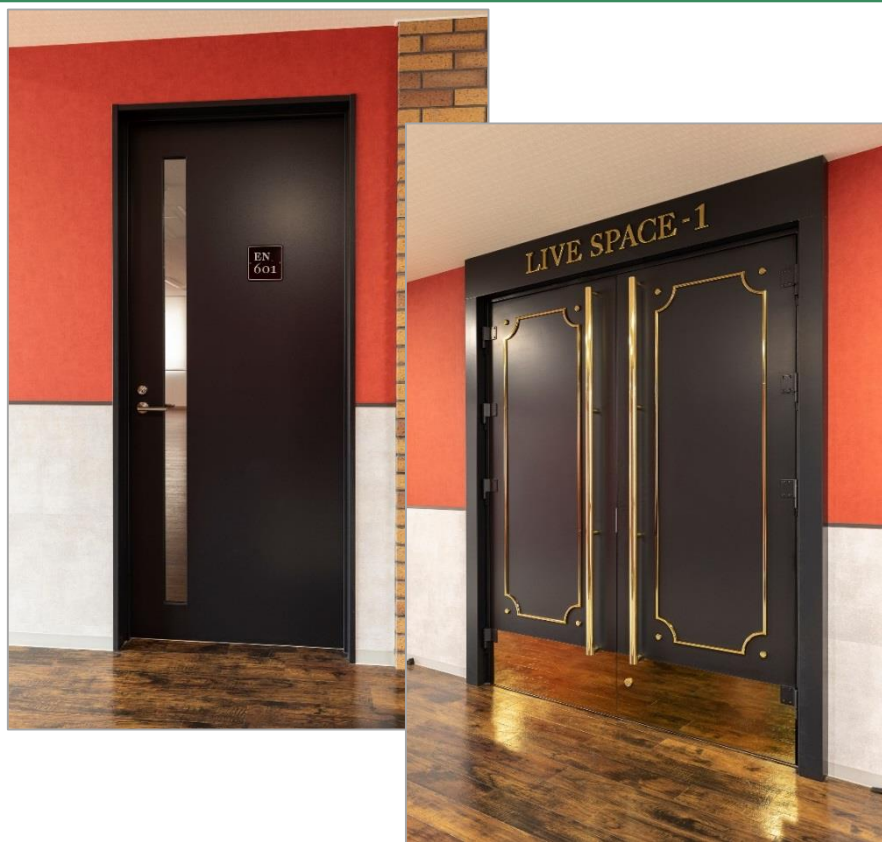


製品概要

【特長】

- ウレタン充填パネルによる優れた断熱性、耐風圧性、静音性
 - パネルは内部に発泡ウレタンを充填した2層スチールパネル構造。断熱性、耐風圧性能に優れるほか、開閉時の静音性にも効果
- ヨーロッパのスタイリッシュなパネルデザイン
 - パネルのデザインは3種類あり、それぞれに適用されるパネル形状とカラー
- ガレージでの使用を考慮した高い安全性能
 - スプリング安全装置を内蔵したスプリング技術
 - ドアトラックローラー
 - パネルの指詰め防止
 - 自動ロックシステム

防音ドア (TSレバータイト)



製品概要

【特長】

- 高い遮音性能と、開閉操作の向上
 - 従来、高い遮音性能を必要とする所には、グレモン装置を用いたPATドアを用いてきたが、オリジナルのマグネット入りのゴムを用いることで、レバーハンドルでもPATドアと同等、またはそれ以上の遮音性能を確保しながら、操作性を向上
- 豊富なバリエーションとオプション
 - すべての遮音グレードに窓付仕様をシリーズ化
 - バリアフリー対応として、床の段差を極力小さくしたフラットタイプが選択可能
 - 防音FIX窓
TSレバータイトと組み合わせて設置することで遮音性能を保ちつつ、内部の可視化が可能に



止水ドア (TSウォータータイト)



製品概要

【特長】

- 緊急時の追加操作不要
 - ゲリラ豪雨による河川の氾濫など、予測不可能な浸水被害が発生しても緊急時も追加操作が不要
- 圧倒的な止水高さ
 - フラッシュ(窓無し)タイプは止水高さ3mとドアが水没する浸水にも対応可能
- 広い開口部にも対応
 - 片開きのほか、2mを超える広い開口部に対応する両開きも設定
- 特許技術の止水ゴム採用
 - 独自開発の特殊なヒレゴムで、SAT、PATドアに高い止水性能を付加。
- 高い意匠性を実現
 - 特許技術の止水ゴム採用で、SATやPATドアと同じ納まり(40mm)のまま、止水性能を実現。

参考資料 (東洋シャッターの概要)

TOYOShutter

東洋シャッター株式会社

商号	東洋シャッター株式会社
設立	1955年9月10日
資本金	20億2,421万円
株式上場	市場第1部（東京証券取引所）（No.5936）
本店所在地	大阪府中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代表者	代表取締役社長 岡田 敏夫
従業員数	562名（2021年3月末連結）
事業所	2本社、10支店、1営業部、57営業所・メンテナンスセンター その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子会社	南東洋シャッター株式会社

1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年 7月	大阪府中央区南船場に本社移転
2009年 2月	中期3ヵ年計画「Fusion Plan 3」を策定
2011年 2月	独ハーマン社と資本・業務提携契約締結
2012年 5月	中期3ヵ年計画「JUMP UP 3」を策定
2015年 5月	中期3ヵ年計画「POWER UP 3」を策定
2018年 5月	中期3ヵ年計画「BRUSH UP 3」を策定
2021年 3月	中期経営計画『BRUSH UP 3 + 1 (プラスワン)』を策定

この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。

実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2021年6月